佐賀県は知的財産を

守り育て生み出していく！

ブランド編

大志
代表 松田 拓也さん

支えてくれた人たちへの感謝 唐津生まれのブランド品づくり

鯖蒲鮨（さばかますし）

〈きっかけ〉父が遺した言葉を冠す

晩秋の佐賀を色づかせる風物詩「唐津くんち」の曳山が走る唐津の街なかで「大志」という飲食店を経営している松田さん。「親父の薦めもあって大阪へ修行に出て、料亭や旅館、割烹で学びました。店名は親父が遺した『洋々高遠の大志を抱け』の言葉から名付けました」と店への思いを話します。オープンして1年後、近隣で発生した火事の被害を受けたものの、多くの人々が支援に駆け付け、1カ月で再開を果たしました。その時の人との繋がりが松田さんの原動力となり、個室スタイル、心地よい時間を過ごせるサービスが評判の繁盛店に。そして7年ほど前、唐津で誕生した養殖魚「唐津Qサバ」と出会い、地元を大切にしたいという思いから唐津Qサバを使った地元の特産品開発に励みます。

〈進展〉人の繋がりが名品を生む

2022年10月には長崎県松浦市で開催された「鯖サミット」に出展。そこで得た意見を参考に「コレだ！」と言える商品が完成しました。そして、生産拡大に向けた工場建設が順調に進む中、次に直面したのは販売戦略という問題。商工会を通じて佐賀県知財総合支援窓口に相談したことで、商標登録やブランド化など、次々と出てくる課題に応じて専門家を紹介してもらい、解決してきました。

「サバは生臭くて敬遠されがちですが、棒鮨の発想から練り物と合わせてみることにしました」と松田さん。Qサバと練り物を一体化させた商品を開発し、専門家さんと繋がるとは思わなかった」という松田さんでしたが、事業を進めていく上で、専門家のサポートの重要性に気づきました。完成した商品には、高級感を感じさせる「鮨」の文字を使った「鯖蒲鮨」という名前を付けて商標を登録、工場建設においても衛生管理の専門家からサポートを受け、量産できる体制づくりができました。工場には店舗も併設し、松田さんが生まれ育った呼子から文字を取り、「呼福」と名付けました。

Qサバと合わせる特製のすり身。生のまま密着できるのは独自製法だからこそ

唐津市の京町商店街にある「呼福」。併設店舗のオープンを間近に控える

〈展望〉唐津といえば「鯖蒲鮨」に！

最近では、全国誌の日経トレンディに紹介されたり、横浜のベイシェラトンホテルの料理で提供されたりと、「鯖蒲鮨」の関心度が少しずつ高まり、販売拡大に繋がりそうな明るいニュースも。これからは、工場に併設する店舗をオープンさせて、より多くの人に「鯖蒲鮨」を知ってもらえるよう販売促進に力を入れていくそうです。

生まれ故郷の呼子のイカと同様に、唐津といえば「唐津Qサバ」「鯖蒲鮨」と言ってもらいたい。松田さんが抱く大きな志は、「人」との縁から実を結び、着実に歩みを進めています。

INPIT 佐賀県知財総合支援窓口
知財トータルサポーターの皆さん

お悩みや課題に応じて全国の専門家をご紹介しています。松田さんの時は、東京のブランド専門家さんとお繋ぎしました。ビジネスを前に進めたい方はお気軽にご相談ください。一緒に解決していきましょう！

知的財産に関する悩みや疑問はこちらまで
相談無料　秘密厳守
INPIT佐賀県知財総合支援窓口
☎0952-30-8191 〈平日〉8:30～17:15
chizai@mb.infosaga.or.jp
佐賀県内の相談・支援事例をご覧いただけます。

「佐賀県知的財産を大切にし、みんなで守り、育て、新たに生み出す条例」についてはコチラ。
佐賀県
佐賀県 知的財産 検索